

*** PMCの狸と思われた足跡はハクビシンの足跡であった！**

国立天文台ニュース2008年12月号(No.185)の「旧自動光電子午環(PMC)のアーカイブ展示」の最後の写真、「何でもアーカイブ」の望遠鏡ピアに登った狸の足跡(写真1)はどうやらハクビシンのものらしい。



写真1 自動光電子午環ピアに付いている獣の足跡

この足跡は、てっきり狸だと思い込んでいた。天文台構内でハクビシンを見かけたという話はよく聞いていた。しかし、最近になって文献から狸の足の指跡は4本爪、ハクビシンは5本爪という情報を得、また元子午線グループの岩下君が自動光電子午環の望遠延慶フロアの階下で死んでいた獣の写真を持っているという情報を得た。そこでさっそく、岩下君にその写真(写真2)の提供をお願いしたところ快く提供していただいた。この写真では頭がスマートで、尻尾が異様に長い。狸は頭胴長50~60cm、尾長15~20cm、肩高約20cm、体重3Kg~9Kgと書かれている。そしてハクビシンは体長:49~76cm、尾長:40~63cm、体重:3~5kgとある。この屍骸は明らかにハクビシンと思われる。別の写真3を拡大してみると顔の中央にハクビシンの特徴である白い線も確認できる。てっきり狸と思っていた獣はハクビシンであった。写真4は石崎氏提供のハクビシンである。どうやらハクビシンはなかなかスマートらしい。天文台構内に狸の生息している穴と思われるものの写

真5を撮ったことがある。これも狸ではなく、ハクビシンの巣穴かもしれない。



写真2 自動光電子午環階下で死んでいた獣の屍骸



写真3 屍骸の顔にある白い線



写真4 ハクビシンの写真
(石崎氏提供)



写真5 天文台構内にある巣穴

このようにして、謎は解き明かされていく。狸もハクビシンも夜行性の動物なので白昼目撃されることは殆どない。夜、暗闇の中で見かけられるのでなかなか正体がわからない。ハクビシンを見たという情報はけっこうあるが、狸と同定した目撃情報は少ないのも確かである。しかし、天文台構内にハクビシンがいた、いるようだということははっきりした。

参考までに、フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』に載っている狸の写真 6 である。



写真 6 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』に載っているずんぐり狸